

中津市

WELCOME やまくに合同会社

立命館アジア太平洋大学 学生団体 ASKA・モリノエビ

株式会社トキハインダストリー

味の素株式会社

Z世代と共に未収穫農作物を価値ある資産に

～産官学民連携型サーキュラーエコノミー実証実験で SDGs に貢献～

担当：農政振興課 久保（電話 0979-62-9046）

中津市（市長：奥塚 正典）は、立命館アジア太平洋大学の学生団体「ASKA およびモリノエビ（代表：若林 快卓）」、WELCOME やまくに合同会社（代表：水谷 文博）、株式会社トキハインダストリー（社長：羽田野 尚志）、味の素株式会社（社長：藤江 太郎）と連携し、未収穫農作物を価値ある資産に変えるべく、サーキュラーエコノミー^(注1)構築の実証実験を行い、フードロス撲滅、地産地消を応援します。

■本実証実験の経緯

- ・ 中津耶馬溪観光協会主催のモニターツアーを実施するにあたり、共創施設 SHIBUYA QWS（渋谷キューズ）にて、未収穫作物活用方法をテーマにワークショップを開催（令和 3 年 6 月）。QWS コーポレートメンバー（法人会員）として当該ワークショップに参加していた味の素（株）Z世代事業創造部と共に本企画を提案。
- ・ 各種調整を行う中で、学生の学びをより深めるために、事前のオンラインワークショップを行い、収穫・加工体験の後、学生主体のアンケート・フィードバック会を行うこととなり、現在に至る。

①中津市及び WELCOME やまくにの目指すもの

田舎には少子高齢化や都会への人口流出などで人がいなくなり、農業後継者の不足やそれに伴い発生している未収穫農作物の問題があります。今回の実証実験では、竹の子に着目し、学生が SDGs^(注2)を体験しながら、荒れた竹林の解消、地域雇用の創出などの地域課題を解決するスキームを構築したい。また、思いやストーリーを持った商品として消費者に届けることで、中津市のファンや関係人口の創出を目指します。

②立命館アジア太平洋大学（ASKA・モリノエビ）の目指すもの

SDGs の啓発活動を行う学生団体 ASKA と食糧問題の解決を目指すモリノエビは、田舎の課題について深く学び、体験することで、Z 世代（注 3）と言われている若者の知見を活かした解決策を提案し、フィードバック。次年度以降の取組みに繋げることを目指します。

③（株）トキハインダストリーの目指すもの

（株）トキハインダストリーは、地域のお客様の安心・安全・健康を願い、実り豊かな大分の新鮮なおいしさとライフスタイルをお届けすることを使命と考えています。地域密着、地産地消、食育を標榜し、魅力ある品ぞろえ、心のこもった接客を通じてお客様に豊かな生活をご提案します。本取組みでは生産者の皆様、食品メーカー様と一緒に地産地消を推進し、顔の見える安心・安全で新鮮な生鮮食品や加工食品をご提供いたします。

④味の素(株)の目指すもの

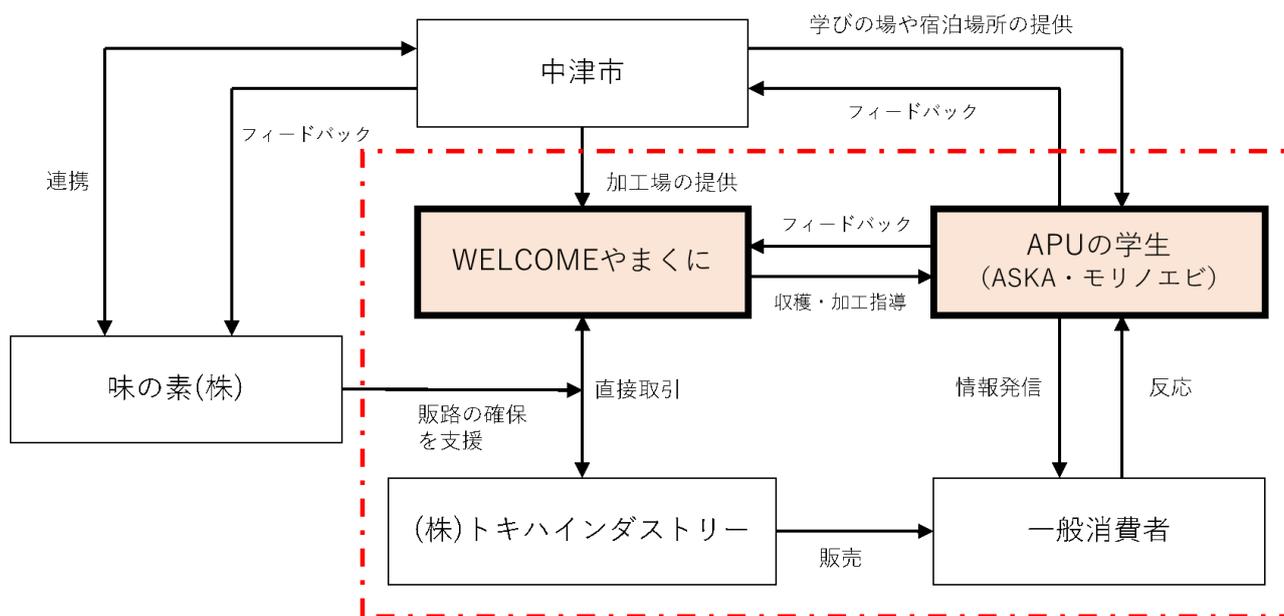
味の素(株)は、100 年以上前に「おいしく食べて健康づくり」という志を持って創業し、現在では食と健康の課題解決企業として、全世界で 3 万人を超えるグループ社員とともに、世界 135 以上のエリアで 7 億人を超える生活者に商品を提供しています。本実証実験では、地方が抱える社会課題を解決しながら、社会価値と経済価値の共創を目指しています。

それぞれの意向が一致したことで連携が進展し、今回、未収穫農作物の収穫を通してフードロス撲滅、地産地消を応援する「産官学民連携型サーキュラーエコノミー開発」企画を実施することとなりました。

今回の実証実験では、竹の子の収穫を立命館アジア太平洋大学の学生を中心に行います。放置され荒廃した竹林は、外へ外へとその根を広げて行き、樹高の低い樹木の日光を遮り、周囲を竹林化させてしまいます。さらに住宅地に根を伸ばすことで、住宅地がイノシシ等の害獣の餌場・隠れ場所となり甚大な被害を与えているのです。適切に竹の子を収穫することは、フードロス撲滅、地産地消になるだけでなく、里山をサステイナブル（持続可能）に守る活動になります。今回の実証実験では、学生が収穫から加工までの収穫体験をすることで、農業の実情、厳しさ、そして楽しさを経験していただきます。

また、（株）トキハインダストリーおよび味の素(株)協力の下、加工後の竹の子の水煮を大分県内で販売することも計画しています。収穫時期は 4 月 22 日（金）～5 月 1 日（日）の期間を予定しています。

■本実証実験のフロー図



■実証実験全体の流れ

4月16日	プレイベント	オンラインワークショップ
4月下旬	第1章	収穫・加工体験 (APUの学生4人×2泊3日を2クール)
5月中旬～	第2章	学生アンケート・フィードバック会
6月以降		竹の子の水煮の販売開始

【プレイベント：オンラインワークショップ】

日時：4月16日（土）（実施済）

内容：学生の活動・思いの紹介、地域の現状と課題の紹介を行い、学生がディスカッション・発表、評論を行いました。

【第1章：収穫・加工体験】

日時：4月22日（金）～24日（日）を皮切りに2クールを予定

内容：学生がWELCOME やまくにの指導の下、竹の子の収穫・加工体験を行う。また、隙間時間に未収穫作物や耕作放棄地などを案内し、リアルな田舎の課題を学習します。

【第2章：学生のアンケート・フィードバック会】

日時：5月中旬～

内容：プレイベント・第1章を経て、学生団体（ASKA・モリノエビ）が中心となり、アンケート・フィードバック会を開催し、次に繋がる課題解決策を提案します。

【竹の子の水煮の販売】

6月を目途に、トキハイダストリー全店舗にて展開予定。

【参考】

(注1) サーキュラーエコノミー（循環型経済）とは

資源をできるだけ長く循環させながら利用することで、廃棄物などの無駄を富に変える循環型の経済モデルのことであり、対義語はリニアエコノミー（直線型経済）です。

(注2) 本実証実験のSDGsでの位置付け

本実証実験はSDGs（持続可能な開発目標）のうち、以下の3つの目標に貢献すると考えています。

目標 11「持続可能な都市」	包摂的で安全かつ強靱で持続可能な都市及び人間居住を実現する。
目標 12「持続可能な消費と生産」	持続可能な消費生産形態を確保する。
目標 15「陸上資源」	陸域生態系の保護、回復、持続可能な利用の推進、持続可能な森林の経営、砂漠化への対処ならびに土地の劣化の阻止・回復及び生物多様性の損失を阻止する。

(注3) Z世代とは

Z世代とは、1990年後半から2000年代に生まれた人を指す言葉です。主に1960年～70年代に生まれた人をX世代、80～90年代に生まれた人をY世代（ミレニウム世代）と呼び、「X」と「Y」の次世代と言う点から「Z」という名称が付けられました。

■荒れた竹林と竹の子



■取材対応について

収穫・加工体験の取材につきましては、下記要領にて対応させていただきます。ご多用の中、大変恐縮ではございますが、万障お繰り合わせの上、ご取材賜りますよう、以下にご案内申し上げます。なお、山林に入りますので、適切な服装にてお越しください。

○参加者 APUの学生、WELCOMEやまくに、味の素株式会社、中津市

○竹の子の収穫体験

日 時 令和4年4月23日（土）8時00分から10時30分（予定）

集合場所 槻木交流センター（中津市山国町槻木1075番地）

※その後、竹林に移動します。



○竹の子の加工体験

日 時 収穫体験終了後（10時30分以降16時までを予定）

場 所 地場産業開発試作施設（中津市山国町平小野271番地1）

